

ヘレン・ケラーと渋谷、並木橋駅 188 都立広尾高等学校

「ヘレン・ケラーが渋谷に来たことあるって、お祖母様言っていたわ。直接お会いしたのかしら」

「私はまだ、生まれてないの私のお母さん、あなたの曾祖母ね」

「そうか、失礼。(笑) なんでまた、渋谷に？」

「並木橋って、バス停あるでしょう？ あそこに、東横線の駅があったのよ、都電の電停も、坂をあがると、小学校、中学校、高校、女学校、大学。しかも、いくつもあったのよ」

「へえー、学校で講演でもしたの？」

「違う違う。塙保己一さんて知ってる？」

「ひろ子の学校のところに資料館があるは、全盲の国学者ね。そこをヘレン・ケラーは訪ねたの」

「そうそう。「私は子どものころ、母から塙先生をお手本にきなさいと励まされた育ちました。今日、先生の像に触れることができたことは、日本訪問における最も有意義なことと思います。」」

『戦争で並木橋駅が焼けていなかったら、あなたも駅を使っていたわね』